

シンポジウム 3（看護師企画）SY3-6 HBO Nurse の確立を目指して

亀山沙矢香¹⁾ 松田健太郎²⁾ 松谷真由美³⁾

- | |
|-------------------|
| 1) 琉球大学病院 看護部 |
| 2) 上ヶ原病院 高気圧酸素治療室 |
| 3) 玉木病院 看護部 |

【背景】

HBO は密室かつ高気圧環境下で長時間の治療を要するため、患者の安全管理と身体的・心理的ケアが重要である。現在、HBO に特化した看護師の教育体制や情報共有の場が十分に整備されていないため、専門的知識と技術を有する看護師不足が課題である。

【目標】

HBO Nurse の育成・確立を目指す。

【方法】

1. HBO 専門的知識・技術を持つ看護師
2. HBO 看護に関する情報共有と標準化
3. 施設間のネットワーク構築と連携強化

【目標に向けた取り組み】

1. 情報発信の強化
 - ・学術集会や研究発表会、セミナーへの積極的参加
 - ・HBO Nurse の役割の重要性を医療者向けに発信
 - ・事例報告や研究成果の公表による認知度向上
2. 教育プログラムの構築
 - ・基礎知識（生理学、装置の仕組み、安全管理など）
 - ・実践的技術（耳抜き指導、急変時の対応など）
 - ・シミュレーションの実施
3. 看護部会の設立
 - ・2024 年 6 月 27 日～看護師安全対策 WG 発足
 - ・定期的な情報交換、知識や経験を共有
 - ・多施設共同での看護研究や事例検討
 - ・ケアの標準化に向けたガイドライン作成

【期待される成果】

1. HBO Nurse の専門性と役割の明確化による効果的な看護ケア
2. 看護ケアの標準化、質の向上による患者の安全性と満足度を高める
3. 経験と知識の共有による継続的な看護師のスキルアップ
4. HBO 看護に関する研究の活性化と看護実践の発展
5. HBO の適応拡大と普及促進

【考察】

HBO Nurse は、装置の特性を理解し、環境に応じたリスク管理と患者中心の看護が求められる。HBO ガイドラインの中に患者自らの意思と行動でリスクや合併症を回避す

ることは難しいため、患者の治療前の身体的、精神的状態、治療中の変化に最大限の注意を払い、不測の事態に備えなければならない」と明記されている。特殊な環境下のため、患者のわずかな体調変化を見逃さない観察力や安全管理、個別性に合わせた共感的関わりを持ち、身体的、精神的安楽が図れる様看護介入していくことが重要である。また、多職種との関わりを持ち、効果的な連携と協働が必要だと考える。

【結論】

HBO の安全性と効果を最大化するためには、専門的知識を持つ看護師の育成と連携が不可欠である。看護部会の設立により、HBO 分野における看護師の確保と育成について効果的な戦略を検討することができる。また、安全管理体制強化、HBO に関する看護の質の向上と標準化を図ることで、患者満足度の向上に貢献できる。

* 当院での看護介入 *



点滴ラインや
輸液管理



不安の軽減や
耳抜き指導



安楽な体位調整